



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2 | 使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北16条東19丁目ビル	階数	地上3F
建設地	札幌市東区北16条東19丁目	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	0人
気候区分	1地域	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年11月 予定	評価の実施日	2015年5月31日
敷地面積	1,598 m ²	作成者	中神 修
建築面積	693 m ²	確認日	
延床面積	2,103 m ²	確認者	〇〇〇



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>建物配置を南側にレイアウトし 北側に駐車スペースを確保。南境界線側には緑地帯を設け、緩衝帯としている。南側隣地も駐車場となっているため、通風・採光・空間が確保されている。</p>	<p>A 省エネルギー</p> <p>注) 「A: 省エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>通常の断熱材のほか、外壁に断熱材を挟み込んだパネルを採用し断熱性能の付加価値を上げた設計としている。</p>	
<p>B 省資源等</p> <p>注) 「B: 省資源等」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>極力凹凸のないよう平面を計画、整形なプランとすることで端材の発生を抑えるよう計画</p> <p>設備的には複数の熱源を採用することにより、状況に応じた省エネ効果が得られる</p>	<p>C 緑化</p> <p>注) 「C: 緑化」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>札幌市の条例による緑化基準をクリアするとともに無機質な建物に対し周辺環境との緩衝材の役割を担うよう配置している。</p>	<p>D 雪処理</p> <p>注) 「D: 雪処理」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>建物以外の部分はほぼ駐車スペースとなっているが、全面にロードヒーティングを敷設して積雪状態が発生しないようになっている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される